(9) 日本国特許庁 (JP)

11実用新案出願公開

13 公開実用新案公報 (U)

昭59-166286 1/

5).Int. Cl.² G 09 F 19/22 識別記号 庁内勢

庁内整理番号 6731-5C

登公開 昭和59年(1984)11月7日

審査請求 有

(全 頁)

砂電飾マット

須実 顧 昭58-61270

②出 賴 昭58(1983) 4 月22日

⑫考 来 者 松田起慶

神戸市長田区西尻池町1丁目2

番18号昌栄実業株式会社内

①出 願 人 昌栄実業株式会社

神戸市長田区西尻池町1丁目2 番18号

砂代 理 人 弁理士 南野万寿夫

明 細 書

- 考案の名称
- 2. 実用新案登録請求の範囲

 - (2) 電気発光体 5 が発光ダイオードである実用 新案登録請求の範囲第一項記載の電飾マット。

166286

- (3) 電飾蓋3が合成樹脂材の成形蓋である実用 新案登録請求の範囲第一項記載の電飾マット。
- 3. 考案の詳細な説明

本考案は電節マットに関する。近来、寛伝効果、豪華な店内外のムード作りを演出するための電節マット類が多数開発されてきているが、本考案は主として接続が簡単に行なえて、所望の長距離区間に於て種々の長さ、方向に電気発光体を並列電節せしめることの可能な電節マットを提供する目的で考案されたものである。

以下実施の一例を示す図面に就いて説明すると1 は中本部を中空とし断面略倒れD字形に筒状に成形した基板である。2、2、2・・は基板1上の適宜の位置に穿孔した電飾孔である。3、3・・は電飾孔2中に被蓋した電飾孔2のでありた脚である。5、5・・は各電飾孔2の下側位置の基板1内に脚部を植設した電気光光体である。6、6は基板1の一端面に突出して設けた接続突起である。7、7は基板1の他の

一端面側に前記接続突起6、6と同一間際を有して審設した接続突起嵌入孔である。8は各電気発光体5、5・に結線し、両端部は接続突起6と接続突起嵌入孔7中に各々配線したコードである。9は適宜電気発光体5の側面及び下面に蒸装した電気発光体5、5・・の然金具である。

第3四に示す如く曲折した形のものと併用する と長さのみならず種々の方向にも簡単に延長接 続出来、店内の豪華な雰囲気が演出可能で宣伝 効果も抜群であり、又、非常口等への誘導効果 等も期待出来る考案である。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の縦断した斜視図である。

第2図は平面図である。

第3図は他の実施態様の一例を示す図である。

1 • • • 基 板

2 電 飾 孔

3 • • • 電 飾 蓋

4 • • • • 脚

5・・・電気発光体

6 • • • 接続突起

7 • • • • 接続突起嵌入孔

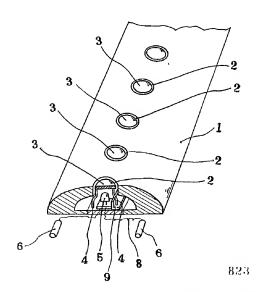
8 · · · · = - F

9 • • • • 恭 金 具

実用新案登録出願人 利 川 義 夫

代理 人 南野 萬壽夫 學

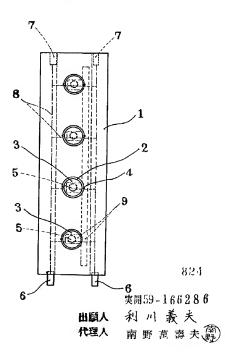
第 1 図



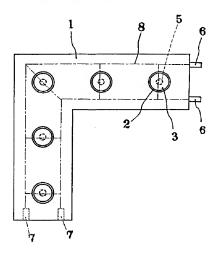
実開59-166286

出願人 利川義夫代理人 南野萬壽夫

第 図



第 3 図



出願人 利川 義夫 代理人 南野萬壽夫

825

実開59-166286